



会報

札幌くらぶ

2019年 2月 第85号

編集・発行/札幌くらぶ 〒064-0931 札幌市中央区中島公園 1-15 札幌事務局気付
ホームページ <http://sakyoclub.net/sakyoclub/>

第24回札幌くらぶサロン

ヴィオラの鈴木勇人さんを迎えて

1月14日(月・祝)に24回目となる札幌くらぶサロンが豊平館で開催されました。

三部構成の第一部は今シーズン前半の札幌定期演奏会の聴きどころを作曲家の八木先生にお話していただきました。「2019年度の定期演奏会は4月のブラームスとエルガー2曲の変奏曲で始まります。」でお話が始まり、八木先生の名言「名曲の陰に女性有り」に基づきベルリオーズとサン＝サーンスへと展開していきました。

エルガーのエンゲマ変奏曲の第9変奏曲は2011年の東日本大震災後のヨーロッパ公演や帰国記念演奏会の中に組み込まれた追悼の曲です。その想いを胸に4月の演奏会を聴いてみようと思えました。ピアノを弾きながら、ユーモアも交えた解説は非常に分かりやすいものでした。今シーズンの定期演奏会が非常に待ち遠しいです。

第二部はニューイヤーマニコンサート。札幌ヴィオラ奏者の鈴木勇人さん、ピアノ伴奏の永沼絵里香さん、お二人ともスタイリッシュな黒の衣装で登場しました。最初は緊張していたのか、音が固いように感じましたが「あけておめでとうございませう！」の一言で2曲目から音が豊かになってきたように感じました。



息がピッタリ合った演奏でトロイメライなどを

3曲目からはなじみのある曲が続き、お二人の息も



「名曲の陰に女性有り...」

ピッタリ合っていてとても素敵演奏。大好きな「トロイメライ」がヴィオラの豊潤な音色で静かに始まり、鈴木さんが奏でる低音のメロディーに酔いしれました。何とも贅沢なピアノ伴奏付のトロイメライは正に夢見心地でした。最後は「ブラヴォー」が飛び交う中、アンコールの「タイスの瞑想曲」を演奏。美しいメロディーとは裏腹な内容のオペラ「タイス」の間奏曲ですが、ヴィオラで聴くのは初めで、穏やかで心が洗われまし

て、さすがは鈴木さんです。第三部はニューイヤーパーティー。札幌くらぶ上田会長から札幌の鳥居専務理事へ楽譜支援金50万円の贈呈が行われ、どんな楽譜がいくらで買われたのかも発表していただきました。会員一人一人の会費からの支援金なので会場の一体感も感じられる贈呈式となりました。楽員によるリサイタルのアピールタイムでは、鈴木さん始め他のメンバーからも案内があり、各自持参してきたチケットもたくさん売っていたようです。

こうして若い楽員の参加も増えてきて、さらに会員も増えて楽しい会話もできて嬉しい限りです。新春という事で恒例のじゃんけん大会もありました。優勝者には札幌の最新CDが演奏者のサイン入りでお年玉としてプレゼントされました。

閉会後は演奏者と応援楽員が二次会まで付き合ってくれて遅い時間まで音楽談議に花が咲き、有意義な一夜となりました。二次会を引き受けていただいた

名曲ミニバー・オールドクラシックの松岡さん、楽しい時間をありがとうございました。

豊平館での限られた人数の中、近い距離で若い演奏家の演奏が聴けるのはとても贅沢で幸せな思いです。参加された事のない会員の皆さま、ぜひ一度覗いてみてください。聴きに来ないともったいないですよ・・・
担当/上野



ニューイヤーパーティーでの鈴木 勇人さん 永沼絵里香さん

次回のご案内

次回の札幌くらぶサロンは25回目の記念開催として5月19日(日)、場所を変えて札幌市民交流プラザの「スカーツコート」で開催します。コンサートマスターの大平まゆみさんと仲間たちの演奏会です。どうぞお楽しみに。

演奏会を楽しく聴くために

八木幸三（札幌くまの顧問）

第617回定期演奏会

3月15日（金）19：00

16日（土）14：00

指揮 クシシュトフ・ウルバンスキ

ヴァイオリン

アレクサンドラ・スム

ペンデレツキ

広島犠牲による哀歌

筆者の学生時代、この曲をLPレコードではじめて聴いたとき、その音の広がりや驚嘆した。それまで聴いたことのない弦楽合奏による音の塊が、これほど心を突き動かすものなのか。ペンデレツキがPMFレジデン



クシシュトフ・ウルバンスキ ©Maruco Borggreve

ト・コンポーザーとして来札するとは夢にも思わぬ事だった。あのレコードジャケットの写真とは別人のような貫禄のあるペンデレツキが、レクチャーや自作の室内楽曲、PMFオーケストラでの「ヴァイオリン協奏曲第2番」での指揮は印象深い。初演時はオーケストラが最後まで起こしたという「広島犠牲による哀歌」がPMFの若者たちに演奏され、時代の流れを感じた。

シヨスタコーヴィチ

ヴァイオリン協奏曲第1番

イ短調

その時の政治情勢により、自



©Beatrice Cruveiller

アレクサンドラ・スム

分の作品が自由に発表できない。そんな今では考えられないような事が半世紀前まであった。この作品は戦後間もなく作曲された。当時のソビエト音楽家会議の批判の矢面に立たされていたシヨスタコーヴィチにとって、内省的な協奏曲は発表しづらかったことだろう。その後、名匠オイストラフの独奏で、ニューヨーク・フィルがカーネギー・ホールで演奏し、空前の絶賛を博す。しかし、西側での歓迎ぶりとは対照的に、ソビエト国内ではほとんど無視された。瞑想的でノクターン風の第1楽章、パッサカリアの第3楽章など、冷たく暗い響きが異様な高潔さを生んでいる。

ストラヴィンスキー

バレエ音楽「春の祭典」

「ハルサイ」は、大学の指揮法授業で目まぐるしく変わる拍子をどう正確に振るかと言うより、どうそれらしく振るかで苦労した記憶がある。この曲の持つエネルギーは実に凄まじい。初演時は会場の聴衆がこの曲の是非をめぐる乱闘騒ぎにまでなったと言われるいわく付きの作品。変拍子があまりに複雑なため、作曲家自身が指揮を出さず、簡単に振れるバージョンを作ったという逸話まである。

第618回定期演奏会

4月26日（金）19：00

27日（土）14：00

指揮 尾高 忠明
ピアノ アンヌ・ケフェレック

ブラームス

ハイドンの主題による変奏曲

主題は、誰もが一度は耳にしたことのあるハイドンの「音楽のためのディヴェルティメント」の第2楽章で用いられた賛美歌「聖アントニのコーラル」。その主題と8つの変奏曲、そし

て終曲で構成されている。最初は2台のピアノのため



アンヌ・ケフェレック ©Caroline Dautre

に書かれたが、管弦楽用に書き直し作曲家自身が指揮するウィーン・フィルによって初演された。変奏曲を得意とするブラームスの面目躍如たる重厚さと、ロマン派時代の多様な「性格変奏」を合わせ持った充実した内容で、次々と楽想が変遷し、まったく飽きを感じさせない。

モーツァルト

ピアノ協奏曲第22番変ホ長調

この曲は、甘美な緩徐楽章を持つ第23番のピアノ協奏曲と共に、オーボエが省かれてクラリネットが使用されるなどの共通点から一般に双子の作品と言われている。この曲が書かれた

頃、モーツァルトは「フィガロの結婚」を作曲し、他に「劇場支配人」や「イドメネオ」などのオペラの作曲・改作、そして第24番までのピアノ協奏曲を矢継ぎ早に生み出すなど創作活動が非常に盛んだった時期である。ピアノ協奏曲の第20番と第21番の両傑作を生み出したあの一連の協奏曲群は、次第に作曲家の内面を表現する傾向のものに変化していった。この曲も緩徐楽章など作曲家後期の作品に見られる端正で深遠な楽想が感じられる。また、軽快な第3楽



©Martin Richardson

尾高 忠明

章の途中で、突如優美なアングラントイ・ノ・カンタービレでクラリネットが甘い旋律を奏するのも聴き所だ。

■エルガー

エニグマ変奏曲

『エニグマ変奏曲』という曲名は通称であり、正式名を『独創主題による変奏曲』という。出版に際して「エニグマ(謎)」を付記することをエルガーも認めた。エルガー自身の説明では2つの謎がある。一つ目は変奏曲に自分を含め友人たちの特徴がスケッチされていること。それが誰かは、副題のイニシヤルですぐに解き明かされた。はじめの変奏曲は、作曲者の妻アリスで、最後の変奏曲は自画像である。二つ目は、実際には演奏されないが、全曲を通して沈黙の伴奏の役割を果たしている別の主題が隠されていること。この謎は、今もって解明されていない。

作曲のきっかけは、教職活動にあぐねたエルガーが、ピアノに向かって物思いにふけていた時だった。即興的な旋律の一つが妻アリスの注意を惹き、「気に入ったのもう一度繰り返して弾いてほしい」と頼まれた。エルガーは妻を喜ばせるために、その主題に基づいて即興的に変奏を弾き始めたことだった。彼の愛妻ぶりが、この曲からもうかがわれる。

第619回定期演奏会

5月17日(金) 19:00

18日(土) 14:00

指揮 マティアス・バーメルト

ピアノ 児玉 麻里

児玉 桃

■ドビュッシー

小組曲(ビュッセル編)

この曲はピアノ連弾曲として作曲され、1889年にドビュッシー自身の演奏で初演されたが、曲の評価は決して高いものではなかった。その後、ドビュッシーの友人であったアンリ・ビュッセルの手により、ドビュッシー作品に見られる技法

が取り入れられた管弦楽に編曲され、多くの人々に知れ渡るこ



マティアス・バーメルト ©Yasuo Fujii

第1曲はハープの分散和音に乗り、フルートのソロから始まる優雅な「小舟にて」。第2曲は木管楽器による躍動的な主題を持つ「行列」。第3曲は典雅な旋律がルイ王朝時代の舞踏風景を描くような「メヌエット」。そして、第4曲はワルツの拍子により、最後は色彩的な管弦楽で壮大なクライマックスを迎える「バレエ」で構成されている。

作曲家初期の作品だが、教會的旋法や全音音階などが組み込まれ、彼の革新性が垣間見える部分も聴き所だろう。

■プーランク

2台のピアノのための協奏曲

二短調

プーランクは、4曲の協奏曲を残したが、その中でも2台のピアノのための作品は、バロック

ク時代からモーツァルトの頃まで盛んであった演奏そのものの楽しさを基調にしている。そのため現代の協奏曲としてはプーランクらしい天真爛漫な音楽性が際立った作品と言えよう。第1楽章からガムラン音楽のような平行4度和音のエキゾチックな響きが聞こえ、その後生き生きとしたピアノリズムと躍動的な管弦楽が軽快に絡み合う。第2楽章はモーツァルトを想起させるような美しく安らかな旋律ではじまり、中間部では互いが洒脱な応答を展開。トッカータ風な出だしではじまる第3楽章は、終盤カデンツァ風の叙情的な旋律が聴ける。

■ベルリオーズ

幻想交響曲

失恋のショックからすばらしい作品が生まれるというのは良くある話。作曲は、どちらかというと思考が内向きに進む作業なので、負の精神状態の時は意外と落ち着いて筆が進む。自分の想いがかなわず、薬まで使った幻覚状態で作曲するという、今なら即刻逮捕されそうな危ない状況で生まれたのが「幻想交響曲」だ。ベルリオーズが24歳の頃に出会った女優ハリエット・

スミスソンへの想いが通じず、激しい孤独感と彼女への憎しみが原動力となりこの曲ができた。この作品の作曲中、ピアノのマリイ・モークと恋愛関係となった。その頃に「幻想交響曲」が初演され大成功をおさめたのだが、その後モークとの婚約が破棄され、間もなくスミスソンと再会し、めでたく結婚するという結末がある。スミスソンのお陰で、歴史的な名曲が生まれ、幸せな結婚生活までできた。名作の裏に女性あり。この曲は、当時としては革新的な試みがされている。まず、全楽章にそれぞれ標題が付けれ物語が展開する。そして、登場人物には固定楽想という旋律がある。これは後のワーグナーの楽劇の示導動機につながった。さらに非常に具体的な情景が音楽で描かれ、第4楽章ではギロチンで首が落ちる様子が表現されている。ベルリオーズ没後150年にバーメルトは、私たちがどんな幻想の世界に誘ってくれるのだろうか。(写真協力 札幌交響楽団)



児玉 桃 ©Marco Borggreve



児玉 麻里 ©Vincent Garnier

楽員さんに興味津津

⑩

ヴァイオリン副首席奏者 飯村真理さんに聞く

♪「翼をください」は感動的

今日（12月5日）は、市内の小学6年生を招待するファーストコンサートでした。昨日はリハーサルと本番、今日は2回の本番がありました。1回の演奏は楽器紹介も含めて1時間くらいです。演奏する曲はよく耳にするような親しみやすいものですが、今日は『ローエングリン』第3幕（の前奏曲）、『アイネ・クライネ』、『ペー

「威風堂々」などでした。「威風堂々」はキタラ専属オルガニストによるパイプオルガンも入ります。子供たちに歌ってもらって「翼をください」も共演するのですが、キタラの全方向から聞こえてくる児童合唱はいつもとても感動的です。年間5日10公演くらいあるのですが、その日によって、または午前と午後

た金子亜未さんにあこがれてオーボエを習い始めた生徒さんが、最近東京の音楽高校にめでたく入学したと聞きました。キタラでのファーストコンサートだけでなく、札幌は道内各地で子供たちのためのコンサートをしています。その影響で音楽の裾野が広がった例を聞くと、こうした活動をやっていく意義があるんだなと思います。

♪ ある日、アップライトが

ピアノを始めたのは4歳だったと思います。母はピアノを子供の時に趣味程度にやっていた、周りの子供たちもやっていた、ピアノくらいやっておい

た方がいだろうと。初めは鍵盤で練習していたのに、ある日アップライトのピアノが届きました。音楽愛好家の祖父は小さなヴァイオリンを見つけきて、妹に習わせたかったようです。でも、妹は習い事に全く興味がなかったで、私が両方をやることになってしまいました。5歳

「威風堂々」などでした。「威風堂々」はキタラ専属オルガニストによるパイプオルガンも入ります。子供たちに歌ってもらって「翼をください」も共演するのですが、キタラの全方向から聞こえてくる児童合唱はいつもとても感動的です。年間5日10公演くらいあるのですが、その日によって、または午前と午後

生まれしたのは京都の宇治です。父の転勤で宇都宮へ移り、小学校5年生からは東京都三鷹市へ。その後、父の実家がある



小学校5年生の発表会

たのはオペラでツアーをするプロジェクトでした。東京オペラシティのリハーサル室を練習場所として、東京文化会館や愛知県立芸術劇場、大津のびわ湖

川崎市に二世帯の家を建て、そこから通える中高一貫の桐朋女子中学校に入りました。桐朋の音楽高校を受けることを前提に進学したのですが、結局高校はそのまま桐朋の普通科に行きました。レッスンは芸大附属高校の先生に就いて芸大受験の準備をしました。周りに楽器を弾いている人もいなくて、自分が人前で演奏するのも、他の人が演奏しているのを見るのも1年に一度の門下生の発表会だけだったので、こんな状態で受験は大丈夫かなと不安になりました。現役で芸大に入れなかつたらヴァイオリンをやめなさいと言われていました。あの時受かっていなかったらこの職業に就いてはいませんでした。

日々の仕事をポジティブに



プロフィール

4歳からピアノ、5歳からヴァイオリンを始める。京都子どもの音楽教室、桐朋学園子供のための音楽教室を経て東京芸術大学音楽学部、フライブルク音楽大学、フェリックス・バルトルディ・メンデルスゾーン音楽演劇大学ライブツィヒを修了。芸大在籍時より小澤征爾音楽塾オーケストラに参加し、2005年「セビリアの理髪師」日本・中国ツアーにてコンサートマスターを務める。サイトウ・キネン・フェスティバル、東京のオペラの森フェスティバルに出演。2011年8月よりライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団オーケストラ・アカデミー生、2013年9月より同オーケストラ第1ヴァイオリン契約団員として在籍。2015年9月より札幌交響楽団に在籍し、2017年4月より第1ヴァイオリン副首席奏者に就任。これまでに矢嶋佳子、清水高師、前橋汀子、ライナー・クスマウル、セバスチャン・プロイニンガーの各氏に師事。

芸大在学中に小澤征爾音楽塾に参加することができ、とても勉強になりました。この音楽塾は小澤征爾さんが指揮するオーケストラで、私が参加した。

芸大卒業後、3年間くらいは個人レッスンをしたり、東京のオーケストラでエキストラとして弾いたりしていました。

♪ 電話が怖くて

音楽の本格的な勉強は大学の4年間だけだったので、もう少し勉強したい、しなければという気持ちは常にありました。さらに以前から留学したいという思いもありましたので、思い切ってドイツへの留学を決めました。ドイツにはいい先生が何人もいらつしやって、ハンブルクの先生にもベルリンの先生にも興味があったのですが、フライブルクに決めました。実はフライブルクありき、だったのです。そこは母が若いころ語学研修で1年間住んでいた町でした。母も町のことにはよく知っているし、母が留学中にお世話になっていたホストファミリーと当時まだ交流があったので、何かの時に安心というものでした。

フライブルク音楽大学では最初、ポーランド人の女性の先生のクラスを受験しました。受かったのですが、クラスには教える生徒の定数があり、今は席が空いていないと言われました。その先生が他の教授にいろいろ聞いて、ライナー・クスマウル先生のクラスの空きが出たと知らせてくれました。クスマウル先生と言えば当時ベルリン・フィルのコンサートマスター職を辞めて教授職に復帰したばかり、多くの優秀な生徒さんが待っているだろうから、指導を受けたらと思うても絶対無理だろうと思っていたのです。クラスにいた日本の女性の生徒がちょうど出たから今、空いていると。私がフライブルクで部屋を探していた時、1年くらい前にクスマウル先生のクラスを卒業していたタジマさんがちょうど引っ越すところだったんです。札幌のコンマスの田島さんです。あちらでは借りていた部屋を出る時には、自分で後に入る人を探すことが多いようです。私は自宅で心おきなく練習できる環境を整えたかったのですが、田島さんが練習できていた部屋でしたので、喜んで借りることにしました。



フライブルク夏休みに

語学学校の友人と

フライブルクに行った当初は、ドイツ語はあまり話したり聞いたりできない状態でした。電話がすごく苦痛でした。何を言っているのがわからず、もう怖くて怖くて。音大は留学生が多いので、ちゃんとしたドイツ語を話せるような人はあまりいないんです。友達もドイツ人とは限らなくて、台湾人やポーランド人、フランス人だったりして、かなり壊れているドイツ語を話していました。なんとなくわかるでしょうといった感じでした。

ドイツには7年半いた事になります。フライブルクに3年半、その後ライプツィヒに4年い

♪ 住んでみたい町で

2年間の契約が終了して、次の就職先を探すことになったのですが、とにかく住んでみたい町で、いいホールがあるところを探しました。そんなときにびつたり当てはまったのが札幌であり、札幌だったのです。

キララは響きが良くてクリアに聴こえます。透明な感じですね。札幌は都会過ぎず、ほとんど何でもそろってて、アクセスも良くて規模もいい、まとまっているなと思います。札幌は、楽員さん同士が助け

ました。ライプツィヒではゲヴァントハウス管弦楽団のオーケストラ・アカデミー生を2年間経験して、そのあとは契約団員になりました。オペラやシンフォニーのほかに、教会での仕事もありました。バッハのお墓のあるトーマス教会では、毎週土曜日にモテットという音楽付きの礼拝があり、そこでトーマス教会少年合唱団と一緒に



卒業試験で クスマウル先生と

よつとトロツとしてつるつるしていて：大好きになりました。今も帯広に行くと、必ず泊まります。

合い家庭的です。入団して最初のツアーの宿泊地が帯広だったのですが、何もわからない私に楽員さんがホテルを手配してくださいました。そこはモール温泉だったのですが、茶色くてち

♪ バッハをレパートリーに

オケだけでなく室内楽とかソロのリサイタルなど、いろいろやってみたいと思っています。

無伴奏の曲、中でもバッハの「無伴奏ソナタ」「無伴奏パルティータ」などをレパートリーとして増やしていければと思います。コンチェルトにはあまり興味がないので、積極的ではないですが、やるとしたらやっぱりメ

ンデルスゾーンでしょうかね。定期演奏会の時など、開演前にレクチャーがあったらいいですね。今はロビーコンサートをやっているから無理かもしれませんが、珍しい曲とか難しいプログラムの時などには、解説があるといいなあとと思うことがあります。

人口200万の都市に、50年以上の歴史を持つオーケストラがあつて、こんなに才能豊かな人たちが集まっている。これは本当にすばらしい宝だと思えます。この宝をさらに育てていくには長い時間と労力がかかります。札幌くらぶの皆さんの支える力が是非必要です。私自身は日々の仕事にポジティブに取り組んで、札幌を常に発展させていけたらと思っています。

17年9月札幌くらぶサロンで



担当/井上・中居・村山・塚田

新春座談会 2019 はばたけ札幌！市民とともに

札幌専務理事鳥居和比徒さんと札幌くらぶ会長上田文雄

鳥居さんが専務理事に就任されて半年になります。2019年新春にお二人の対談が実現し、大いに語っていただきます。テーマは新年にふさわしく「はばたけ札幌！市民とともに」にしました。昨年は就任後に震災もあり、また札幌くらぶにとってもJOF C開催など忙しい1年だったように思います。今回は年頭にあたり、2019年を語っていただきたいと思えます。(敬称略)

上田札幌くらぶ会長



司会：札幌くらぶは24年間の歴史を創ることができました。会長の初夢は？今年の目標は？

上田：札幌くらぶ会員の皆さん、札幌交響楽団専務理事鳥居さん、あけましておめでとうございます。このように対談ができること嬉しく思います。札幌くらぶ24年間に、楽員も半分近くが交代されましたが、会報やサロン演奏会等を通して札幌くらぶの活動に大方ご理解を得ていると思っております。昨年は第29回PMFに



鳥居札幌専務理事

上田…キタラを満席にすることが楽団経営にとつての命題であり、楽員の皆様の演奏のエネルギーにもなる私たち札幌くらぶが考えて、オケファンのすそ野を広げる活動をして参りました。小学生のファーストコンサート(札幌くらぶが提案し市教委で取り組む)や中学生招待事業(札幌くらぶで

司会…多くの市民や道民に札幌をアピールするためにもっと街に出てほしいと願っていますか？

上田…は、未来に向けてファンを増やしていく事業です。札幌のメンバーもいろいろな形でリサイクルやアンサンブルに取り組み、活動されていますが、より戦略的に楽団として広報戦略なり、ファン拡大を目指すた演奏提供の機会を作るべきではないかと思っております。

鳥居…確かにオケにとつてすそ野を広げることは経営的にも重要です。JRタワー妙夢コンサートへの出演など小編成での演奏も結構実施しています。ただ年間12

0回のフルオケの演奏会とそれぞれの練習や移動日確保などでスケジュールがいつばいの状態が続いています。

2015年度から、札幌のさらなる世界発信を目的に取り組んでいる「留学生札幌演奏会招待事業」が4年目を迎えました。今年度はあいにく震災の影響により予定していた演奏会が中止になるなど例年より回数は減りましたが、事業を開始してから総勢百名以上の留学生を札幌の定期演奏会や名曲シリーズに招待しています。

4年目を迎えた 留学生招待事業

演奏会終了後のお茶会は感動の余韻に包まれ、札幌の演奏、そしてキタラホールの素晴らしいさへの賞賛の声があふれて毎回盛り上がりです。また、これに機会に自分でチケットを購入してキタラに聴きに來たいとの嬉しい言葉も…。

さらに、今年度はPMFコンサートへの招待も試み、札幌市が誇る国際的な若手演奏家育成事業についてご案内させていただきました。留学生の皆さんは、自国の若者がキタラのステージで堂々と演奏する姿に郷愁も交えた喜びで胸を熱くされていました。

札幌くらぶでは、これからは多くの留学生に札幌ファンとなつていただき、その素晴らしいさを大学内や自国でも語っていただけるような企画を進めていきたいと考えております。留学生へのチケットの寄付等、会員の皆様からのご支援もお待ちしております。おま



演奏会後のお茶会

担当/米森



す。地下街から直接というアクセスもいい。札響としては活動の場が広がるわけで、hitaruを有効に活用する方を具体的に検討しています。客層やそれに合う音楽のジャンル、開演時間など検討項目は少なくありません。キタラが改修で休館となる2020年11月から半年間は、hitaruが活動の主舞台となるでしょうから、それを視野に入れた検討が必要です。



を世界に知ってもらうのも、2019年の夢かなあ。

鳥居：P.M.F側から札響が招待を受けたならば光栄と思います。

司会：9・6北海道胆振東部地震被災地訪問「音楽による心の復興コンサート」開催に対して支援金がJ.O.F.C主催

が実現すれば市民、道民のためにより活用されるような音楽行事になる！これも今年観た夢です。

鳥居：昨年は札響もP.M.Fに参加して一定の評価を得ています。P.M.F教授陣やアカデミー生を通して札響の名が世界に届くことは非常に評価できると思います。

上田：私は世界中から集まってくるアカデミー生に、もっと札響演奏会を聴いて欲しいと思っています。札響演奏会に教授陣が入っているとか、札響が教授陣に加わるとか、そのようなコラボレーションを目標にできないものではないか？P.M.Fを通じて札響の素晴らしさ

いと思っています。

司会：最後に札幌交響楽団にとって2019年をどんな年にしたと思いますか？

鳥居：今年に限らず、札響の演奏は来ていただけると必ず感動してもらえ、良い演奏を提供したいと思えます。ですから、事務局としては演奏会場に多くのお客さんが足を運んでもらえるようにすること、とくに定期会員を増やしていくことが宿題だと思っています。

これからも定期演奏会の会員拡大に対しても札響くらぶの応援をお願いします。札幌交響楽団が発足して58年になります。60年に向けての準備の年と思っています。

上田：聴衆が増えれば楽員たちも燃えてきます。その姿は私たちにもよくわかります。札響くらぶは、会員400名とともにスタッフ実働部隊が札響へのサポート活動をすることで札響の演奏がより味わい深くなる喜びを伝えながら、全面協力をしてまいります。本日はありがとうございます。

11月11日・キタラ会議室にて
司会 西川 札響くらぶ事務局長
担当／塚田

今年も 楽譜支援金を贈りました

先日(1月14日)開かれた札響くらぶサロンのニューイヤーパーティーにおいて、今年も札響くらぶから札響へ「楽譜支援金」50万円の贈呈が行われました。購入された楽譜は一覧表のとおりですが、今年度の定期演奏会または名曲シリーズで使用されるものばかりです。

札響ライブラリアンの中村大志さんによると、「はげ山の一夜」は現在リムスキー・コルサコフによる編曲版で演奏されるのが一般的で、作曲者自身のオリジナル版を聴けるのは貴重な機会だ、ということでした。また、スッペの序曲といえは「軽騎兵」などが有名ですが、六月の「名曲」では「怪盗団」「美しきガラティア」「ボッカチオ」という普段あまり耳にしない序曲も演奏されるそうです。このうち「怪盗団」と「ボッカチオ」は札響初演でもあるそうです。

2018年度 札響くらぶ楽譜支援金による購入楽譜

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 エルガー | エニグマ変奏曲 |
| 2 J.S. バッハ | カンタータ第12番 |
| 3 J.S. バッハ | カンタータ第21番 |
| 4 J.S. バッハ | ヨハネ受難曲 |
| 5 ムソルグスキー | はげ山の一夜 (原典版) |
| 6 アルヴェーン | スウェーデン狂詩曲第1番 |
| 7 スッペ | 怪盗団序曲 |
| 8 スッペ | 美しきガラティア序曲 |
| 9 スッペ | ボッカチオ序曲 |
| 10 オッフェンバック | ジャクリーヌの涙 |

オッフェンバックの「ジャクリーヌの涙」はチェロの独奏を含む素敵な曲ですので、石川祐支さんのチェロに注目してほしい、というのでした。

担当／村山

長いあいだ感動をありがとうございました！



織田美貴子さん

1月退団

応援ありがとうございました。オーケストラにいられて11年間幸せでした。関東に行き、これからも進化していきたいと思います。



前川和弘さん

12月退団

長い間支えて下さいましてありがとうございました。これからは私の後輩たちにも変わらぬ応援をしてやってください。

ステージの裏側

札幌の新年はふきのとうホールで始まった。小さなホールなので奏者は11人に客演2人、本当に最小限のオーケストラで、指揮は佐藤俊太郎さんだった。室内楽に編曲されたマーラーの交響曲第10番では珍しい鍵盤楽器ハルモニウムが使用された。札幌で時々演奏されるチェレスタより大きく、足で空気を送り発音する。オルガンの一種で足の踏み具合が難しいように、その重さ故、東京からフェリデーでやって来た。奏者は西沢央子さん、1892年ミュンヘン社製フルレストア（修復）して自身で所有している。現在はほとんど製作されていない、百年以上前の楽器は100kg以上の重さでキヤスターもなかった。スタッフの尽力に感謝するだけである。

会員／塚田総

随想 本棚の隅から 22

この随想を6年も続けてきたおかげで脳の活性にとっても役に立っている。

先日FMからチャイコフスキーの交響曲第1番「冬の日の幻想」がながれてきた。窓の外に目をやると雪がふわふわと舞いながら降っている。ぼんやりと聴いていたら、アナウンサーが「演奏はソビエト国立交響楽団でした」と言った。何故かこの楽団のことは時々思い出すので、遙か遠い秋の日を振り返ってみた。

その日一緒に行くはずだった友人が出張から戻れないと電話があった。当時我が家で暮らして居た大学生の甥に「コンサートに行く？」と聞いたら「もちろん」と張り切って付いてきた。

ソビエト国立交響楽団

1978年10月26日（木）

18・30開演

北海道厚生年金会館

プログラム

指揮：

ウラジミール・ヴェルビツキー

ピアノ独奏：

ニコライ・ペドロフ

グリシカ：

「ルスランとリネドミラ」序曲

チャイコフスキー：

ピアノ協奏曲第1番

変ロ短調作品23

チャイコフスキー：

交響曲第5番「短調作品64

札幌と長岡と岡山の三都市だけヴェルビツキーの指揮で、他は全部エフゲニー・スベトラー

ノフの指揮だった。10月11日から30日までの間に全国で16公演を行っている。札幌公演は13番目だった。

それ程耳の肥えて居ない私でも退屈な演奏だったので、がっかりしたのが忘れられない。40年経ったいまも。まして、音の研究をしていた甥はかなり不満らしかった。落ち葉の積った大通公園をぶらぶら歩きながら、「感動の無いコンサートだったね」とぼつりとつぶやいていた。

あのころはソ連から来るオーケストラは評判が良かったのに残念だった。私達の間では失望したコンサートの代名詞になっている。

今はギターができて、札幌の定期公演を毎月満足して聴いている。

会員／井上明子

スタッフの活動報告

11月22日（木）

会報第84号発送作業

11月26日（月）

第7回運営会議

12月21日（金）

第8回運営会議

1月14日（月）

第24回 札幌くらぶサロン

1月26日（土）

札幌市内中学校吹奏楽部招待事業
新陵中25名

1月28日（月）

第9回運営会議

2月16日（土）

札幌市内中学校吹奏楽部招待事業
前田北中22名、宮の森中28名

札幌くらぶの活動内容の詳細・予定はホームページに掲載されています。

札幌くらぶ 検索

スタッフの声

▼不思議なことに北海道の各コンサート会場の緯度・経度をヒューベインの方程式等で分析すると驚くべき共時的データが現れることをここ数年で発見いたしました。詳しくはいずれ書籍として発表いたします。（佐藤）

▼年明けニューイヤークンサート三つ（札幌二つとプラハ）。どれも勿論大満足。興味深かったのが、ふきのとうホールでの札幌のコンサート。室内合奏用に編曲されたドビュッシーやマーラー、シユトラウスの曲を首席陣が熱演。本邦初演も。指揮者の解説も楽しめました。（定政）

▼生まれて初めて見たオペラが、厚生年金でのアイデアだった。それが平成最後の年を振り返れば、4月に新国立で、8月にペローナで、10月にヒタルでと、偶然にも一年にアイデアを三回も鑑賞することができ、私にとって忘れられない年になった。次回はいつどこで見ることができるのかな？（神）